



あけましておめでとうございます

一昨年の5月から流行した新型インフルエンザでは、その対応に追われましたが、今年はノロウィルスの流行が懸念されています。感染防止には迅速かつ的確な行動が求められます。

患者さんが安心して療養生活を送っていただけるように、職員ひとりひとりが感染防止への意識を高めるなど、院内感染防止対策を強化していきたいと考えています。

また、当院では、昨年の11月に新しい電子カルテを導入しました。これまでの電子カルテと比べて性能は格段に優れています。その機能を最大限に利用して、業務の効率化をはかり、医療の質を高め、患者さんへのサービス向上へとつなげていくことが今後の課題です。

「地域から信頼され、人に優しい医療の提供を目指して」の理念のもと、本年が宝塚第一病院にとって飛躍の年となることを期待しています。



院長 那須 範満

ワクチンってなあに？

皆さん、子供のころからワクチンを何度も打った経験がありますよね？時々取りざたされる副作用についても気になりますよね？でも、ワクチンを打つと、一体どんなことが体の中で起こるのでしょうか？

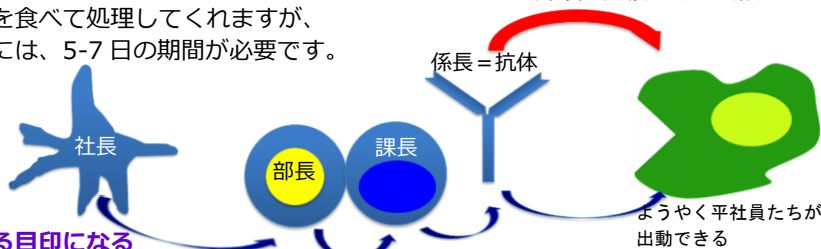
ワクチンとは、

病原体の一部、あるいは全部を弱毒化したものを、来たるべく感染の前に投与すること。

白血球の出動には時間がかかる！

病原体が体に侵入してくると、白血球が病原体を食べて処理してくれますが、しかし、病原体の侵入から、白血球の処理までには、5-7日の期間が必要です。

実は、白血球は、会社でいうところに平社員！
平社員の白血球の出動には、親分の免疫細胞達からの指令が必要なのです。

**抗体は、病原体と私たちの正常の細胞を見分ける目印になる**

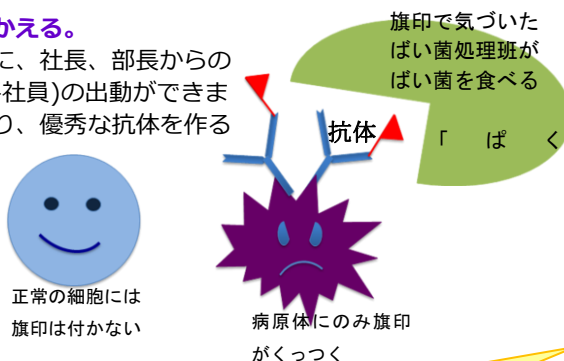
実は、抗体自体は、病原体をやっつける効果はありません。しかし、白血球が私たちの正常の細胞を食べずに、病原体だけを食べる目印の役割をしてくれます。

ワクチンを打つと、感染症に、素早く、効率よく立ち向かえる。

ワクチンを打っておけば、次に病原体が侵入して来た時に、社長、部長からの指令なしに抗体を作る事が出来るので素早く白血球(平社員)の出動ができますし、一度ワクチン接種の時の練習がありますから、より、優秀な抗体を作る事もできます。

ワクチンを打つとこんな事が体の中で起こります。

ワクチンの設計や作成には、効率よく抗体を作り、かつ、副作用が少ないように様々な工夫や検討がなされています。



皆さんも、適切な時期にワクチンを接種して、感染症から身を守りましょう！！

内科医師
松崎 慈子
外来
火曜午後診
金曜午前診

こんにちは、松崎慈子です。この秋に九州から引っ越してきました。初めての関西ライフなので、お能の見物、新世界の串カツ、お寺めぐり、阪神タイガースの応援など、一通り体験したいと思っており、わくわくしています。

外来で皆さんにお会いして、いろいろなお話を伺う事を楽しみにしております。よろしくお願いいたします！！

宝塚第一病院 看護部(医療安全への取り組み)を紹介します



看護部の医療安全への取り組みについてご紹介します。

看護部では、各部署から選出されたリンクナースが、「看護部リンクナース委員会」として組織し、「医療安全管理委員会」の下部組織である「医療安全小委員会」と合同で機能しております。現場で起こったヒヤリ・ハット報告や事故報告の詳細に関する情報を、セーフティーマネージャーと共に収集し、その改善策を検討しております。

リンクナースの役割として、その改善策を各部署に持ち帰り、スタッフに伝達・指導するとともに、セーフティーマネージャーと病棟ラウンドを行い、チェック表を用いた状況確認とスタッフへのインタビューを通して、医療安全の行動確認を行い、フィードバックしながら安全に対する意識の向上を図っております。

今年度の「院内医療安全研修会」では、ヒヤリ・ハット報告の中でよく遭遇する事例を場面設定し、ロールプレイを行い、対策についてグループワークを行いました。また、KYT を通じて、参加できなかったスタッフに伝達練習を行い、情報の共有に努めております。



転倒・転落に関しては、転倒・転落アセスメントスコアシートから導かれた得点が患者の実情に沿うよう見直しを行い、より安全で確実な対策が実施できるように取り組んでおります。

新電子カルテの稼働に伴い、患者の安全確保に最善を尽くせるよう、3点チェックシステムを導入し順調に稼働しています。

患者参画のより安全・安心な医療環境を今後とも強化し提供していきます

新しい電子カルテシステムが11月1日より稼働しました

当初は、操作に不慣れなため診療に時間がかかり患者様にご迷惑をおかけしましたが、現在は運用も落ち着き始め、新システムがその性能を発揮し始めています。

看護システムは医療安全管理のための新機能を搭載し、入院中の患者様はより安全・安心な医療を受けることができるようになりました。

各診察室、病棟等にレントゲン画像用モニターを設置しフィルムレスの運用を開始しました。また、中央採血室を新設、検査センターからの検査結果のオンライン受信も開始し、診療情報を迅速に提供できる体制を整えました。

薬剤情報システムも導入し、瞬時に必要な情報を検索できるようになりました。

文書作成・管理システムは多種多様な文書の作成に対応でき、かつ、他医療機関の先生方からいただいた診療情報提供書等の重要書類もイメージスキャナーでコンピュータに取り込み一括管理しています。

リハビリシステムの導入によりリハビリ患者様の記録を合理的に管理し診療に活用できるようになりました。

再来受付機と診察順番表示機も新しくなり、簡単な受付とわかりやすい案内ができるようになりました。

新システム稼働に併せ、患者様へのサービス向上を目的に診療予約制を導入しました。診察待ち時間の短縮に繋がるものと期待しています。(予約の無い患者様もこれまでと同様に受診することができます。)

新システムではクリニカルパスがシステム化されました。クリニカルパスとは治療や検査毎に標準化された入院診療計画をスケジュール表にまとめたものです。患者様にもお渡ししますのでご自分の治療計画をわかりやすい理解することができます。

今後とも、安全・安心な医療、高度で良質な医療を提供できるよう努力して参りますので、どうぞ皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



コラム THE JIMUCHO v ol. 7

昨年新年号に、3年にわたり放送されるNHKのスペシャルドラマ『坂の上の雲』のことについて書きましたが、先日その第2部が放送されました。

この小説は、明治という時代に立ち向かった同じ四国・松山出身の秋山真之・好古兄弟と正岡子規たちの青春群像を書き上げた物語ですが、現代の日本人に勇気と示唆を与えてくれる作品ではないかと思います。

私は昨年、3人の主人公を育んだ松山に行き、松山の街歩きを楽しんできました。歴史に興味にある方は、一度小説を読み、ゆかりの地を訪れてはいかがでしょうか。第3部は今年12月に放送予定で、今から楽しみにしています。

事務長 丸山

